



十勝川中流部市民協働会議 報告会

平成27年3月21日

帯広開発建設部 帯広河川事務所



報告内容

- 川づくり(案)の進捗状況
- 平成27年度工事予定(十勝川中流部)

川づくり(案)進捗状況

※十勝川中流部市民協働会議と教育機関と連携し
環境に配慮した治水事業の実施

十勝川中流部川づくりワークショップ(H22.7-H24.3) 川づくり(案)

撮影:平成23年10月
作成:平成25年3月9日 第2回十勝川中流部川づくり報告会

【音更川合流点より上流】

合意事項

- ・左岸側の樹林を伐採し草原環境へ
- ・連続性確保のため河岸の樹木幅10m程度を保全
- ・中洲や河道内の河原は現状を維持し、掘削は行わない

KP 57.4 左岸河畔林を伐採
河岸側の樹木は保全(10m程度)

【音更川合流点下流①】

合意事項

- ・左岸側(音更側)の樹林を伐採し、草原環境へ(河岸側10m程度の樹木及びケショウヤナギ林を含む大型樹林は保全)
- ・右岸側(帯広側)の河岸を平水位で掘削(幅30~40m程度)

KP 55.2 ケショウヤナギを含む大型樹林を保全(幅30m程度)
樹木を伐採
帯広市側を平水位で掘削(幅30~40m程度)

【相生中島上流左岸】

合意事項

- ・左岸側(音更側)の河岸を、樹木の連続性に配慮しつつ平水位で掘削。
- ・樹林の分断される箇所では、連続性を確保するため樹林再生の試行的な取り組みを実施する。

【施工直後】 ▶ 【施工後約10年のイメージ】

H25完了

野生動物の移動に配慮し樹木の連続性を確保
表土を除去し樹木種子の活着を促す
樹林の再生

【相生中島より下流】

合意事項

- ・中洲については、樹林化している部分(中洲の半分程度)を平水位で掘削し、河原環境の形成により再樹林化を防止する。
- ・右岸側にショウドウツバメの集団営巣地があるため、左岸側を平水位で掘削する。

H24完了

左岸と中洲を平水位で掘削
河原環境化
左岸を平水位で掘削



【音更川合流点より下流②】

合意事項

- ・中洲を、左岸側半分程度を残して平水位で掘削。枝流は保全する。
- ・併せて、河原環境の形成を図るとともに再樹林化を抑制する。

KP 54.4 枝流を保全
右岸を平水位で掘削 中洲を平水位で掘削

【相生中島上流右岸】

合意事項

- ・右岸の河岸側の樹林を幅50mで保全し、その背後地の樹林を伐採。
- ・再樹林化を防止するために、掘削して湿地環境を形成する。

H25-H26完了

KP 53.6 河岸側を50m幅で保全
樹木伐採 樹木の連続性を確保
湿地環境とし再樹林化を防止 音更側を掘削

【メン川合流点下流】

合意事項

- ・メン川と十勝川の合流部は、サケ稚魚の速やかな降下を考慮し、平水位で掘削するとともに、メン川沿いの樹木は保全する。
- ・平均年最大水位程度で右岸高水敷を掘削するとともに、再樹林化を防止するため、地域との調整を図った上で、凹凸を付けて多様な湿地を含む環境をつくる
- ・施工中の十勝川温泉側からの景観を考慮し、中洲の樹林の一部を10m程度の幅で残しながら施工する。

KP 46.2 川側河畔林は全て保全堤防側は約10m幅で保全
平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出
十勝エコロジーパーク

【途別川合流点下流】

合意事項

- ・河床部を掘削する。
- ・右岸側の高水敷については、現況の水域が極力残されるよう、水域周辺の樹木の内、川側を全て保全、堤防側を幅10mで保全し、その他の部分を平均年最大水位程度で掘削し、草原環境を創出する。

KP 47.8 草原環境とする
平均年最大水位
平均水位で掘削

【十勝川温泉より下流】

合意事項

- ・樹林を伐採後、掘削して浅場環境を形成する。
- ・十勝エコロジーパーク下流の樹林の一部を疎林化する。

※具体的な実施については、今後、十勝エコロジーパークや北海道と調整

KP 47.2 河畔林伐採
浅場環境の形成 河床及び右岸高水敷掘削



現況写真1(樹木伐採)



平成25年10月撮影₄

現況写真2(河道掘削)



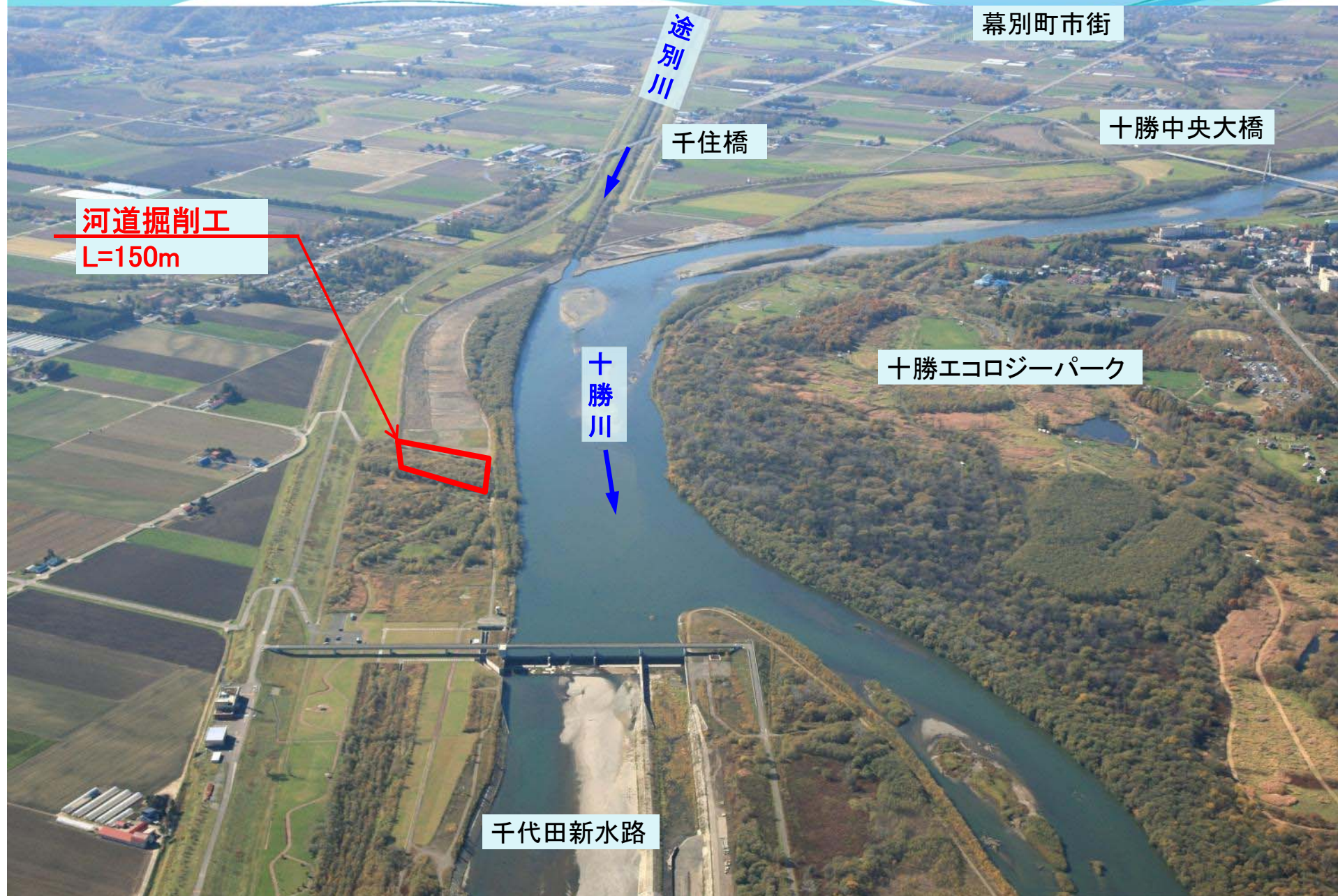
平成25年10月撮影

現況写真3(河道掘削)



平成25年10月撮影

現況写真4(河道掘削)



平成25年10月撮影

次年度以降の動き

- 工事が完了している箇所について十勝川中流部市民協働会議とともに現地確認を行う。
- 引き続き、教育機関等と連携し、草地環境・湿地環境の形成を行う。



地域連携により十勝川中流部における環境保全に努める。